

Nihongo Network News

2002.2.22発行

No. 35

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 ☎03-3235-1171

東京ボランティア・市民活動センター メールボックスNo.4

「地域国際化セミナー」が 開催されました！

2月3日有楽町の東京国際フォーラムで、今年の4月から始まる小中学校での「総合的な学習」の中での国際理解教育に関するセミナーが開催されました。この時間で何を子どもたちに伝えようか検討中の教員、地域国際化協会・NGO、興味のある方々が会場に集まり、満員の参加者には多彩な豊富な実のある活動に関心を集めた一日でした。

午前の全体会に続き、午後は3つのセミナー、2つのワークショップが開かれました。

セミナー2では「日本語ボランティア教室として学校の国際理解教育にどの様に関わっているか」をテーマに、TNVNの会員団体である3代表の大内多恵子さん(ことばのひろば)、山本敬子さん(日本語ともの会)、木村茂さん(グループWA)から、栖原暁さん(東京大学留学生センター教授)のコーディネーターで事例報告があり、教育現場から小堂十先生(練馬区の小学校)、



三つの行事にTNVNが 企画参加しました。

外国人として授業に参加した2人からも貴重な意見が聞けました。

既に国際化理解教育に関心のある学校・先生、国際交流窓口、日本語ボランティア教室の3者が地道な協力の中で行われ、外国人の参加を得て授業が進められています。この報告意見を通し、先生が授業の中で学校のねらいを明確にし、日本語ボランティア教室の窓口、協力する外国人、と十分な話し合いが不可欠です。子供達は外国についての興味・関心が広がっている。外国人は交流を通し、自分の国の文化を知って貰いたい、もっと理解して貰いたい。これをどの様に折り込めるかも欠かせない。その他多数の意見が出されました。(梶村)

日本語ボランティアも IT講習会

1月12日(土)にTNVNが文京区国際友好交流協会(BIA)との共催で、講師に柳澤好昭氏(国立国語研究所)をお迎えし、「IT講習会」が開催されました。会場の文京区立本郷台中学校は地下鉄丸の内線本郷三丁目駅のそば。コンピ

ュータールームのパソコンの前には、ほぼ40名が参加しました。

この講習会のテーマは、文化庁、国立国語研究所の「日本語教育支援総合ネットワーク・システム」の内容と使い方でしたが、柳澤氏はそれとともに日本語の教材作りに役立ついろいろな情報も紹介、参加者の皆さんは指示に遅れないようにマウスをクリックしたり、キーボードを叩いたり一生懸命パソコンと取り組みました。教室は熱気にあふれ、時の立つのも忘れて画面に入っていました。(林川)

羽村市で 「日本語ボランティア入門講座」

1月19・20日の午後、コミュニティセンターで、TNVNのスタッフ4人が講師役となり、(財)羽村ふれあい地域づくり公社主催の入門講座が開かれました。

「日本語ボランティアを始めよう」から「日本語学習支援のヒント」「日本語再発見」などのテーマで、それぞれ実体験にもとづく話をしました、30余名の参加者の皆さんの関心の高さが伝わってくるようでした。(林川)

日本語「ボランティア」活動について思うこと

大阪大学留学生センター教授

山田 泉

わたしは現在大阪大学留学生センターで留学生に対し日本語を教えること等で生業を得ながら、地域の国際交流協会ニューカマーの子どもたちの放課後の居場所作りのボランティアをしています。

わたしにとってTNVNというと、いつも設立時のことが思い出されます。つまり、1993年11月27日の「ぼらんていあめっせ東京」の分科会で、東京等の日本語教室関係者が一堂に会し、熱のこもった協議の後、ネットワークを組織することを全会一致で決議したあの日のことです。わたしは、同日、都内の別のところでの日本語教育関係者のシンポジウムに参加した直後、飯田橋の「ぼらんていあめっせ東京」の分科会の会場を訪ねました。かなり広い会場であったにもかかわらず参加者が会場からあふれ、追加の椅子を何度も廊下に並べなければならなくなる状況に少なからぬ感動を覚えたことが今でもありありと思い出されます。

「ぼらんていあめっせ東京」を訪れる数十分前まで参加していた日本語教育関係者のシンポジウムでは日本語教育学界のそうそうたる面々が顔をそろえ意義深い協議が行われてはいたのですが、飯田橋の会場は、それとは対照的な場の雰囲気にも包まれていました。それを一言でいうと、ニューカマーの隣人に向き合い悩みながらも現状を打開しようという思いを共有している者たちの情熱が会場に満ちあふれていたというものです。

まさにニューカマーの日本語学習者、あるいは学習したくてもその条件さえ得られない住民の側に立ち、同じく住民として自らあるいは自らの参加する団体が何をすべきかを問い、そのために自らを変え、社会を変えていく方策を模索している姿がそこにあったと思われまふ。当事者であるニューカマーの問題の解決という視点がまずあり、もう一方の当事者であるホスト社会の一員である「ボランティア」としての自らの在り方を問うとい

う姿勢です。それを同様な立場のすべての参加者が共有し、問題の解決をともに目指したいとの思いがあふれていたと考えます。

ところで、あれから8年余の歳月が経過した現在、日本社会におけるニューカマーの状況が大きく改善されたかということ、残念ながら肯定できません。むしろ、日本社会を見舞っている長い経済不況は、これらニューカマーという「社会的弱者」をより深刻な状況に追いやっているといわざるを得ません。その上、世界的に見ても経済のグローバル化が進展する中、これら多くのニューカマーの母国でも、より社会的に弱い立場にある人々の問題が顕著になっています。このような日本と母国の双方でニューカマーやその同胞が置かれている状況は、日本を含む経済「先進国」のわたしたち一人一人の生活と深い関係があることを改めて思い知らされる度に、「ボランティア」として複雑な気持ちになります。

わたしたち「ボランティア」も、これまで学習者とのかかわりによってたくさんのことを学んできました。しかし、学習者の日本語学習を支え、この人たちが社会に受け入れられるように努力はしても、日本や世界の在り方という社会のほうを変える活動はほとんど進めてこなかったのではないのでしょうか。今こそ原点に返って、ニューカマーの現状から学ぶことを続けながら、経済分野を含め、すべての人を幸せにしている現在の社会に対し、もう一つの社会の在り方を示し、それを実現させていくための教室を作っていく必要があると考えます。

[連絡先]

- 大阪大学留学生センター豊中分室
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-16
電話:06-6850-5032/5034 FAX:5033
- 大阪大学留学生センター
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-7
電話:06-6879-7108 FAX:7077
- E-mail: PXB14100@nifty.ne.jp

福田先生へのお礼とお知らせ

福田知行先生には、ご多忙の中長期にわたり本欄に「正しい日本語」とは何かの掲載記事をお願いしてまいりました。ご承知の通り前34号で終了しました。

毎回の記事から多く読者が学び、刺激を受け、参考にさせていただきました。

ここに改めて福田先生にTNVNの編集委員一同及

び関係者からお礼申し上げます。

35号から新たにボランティア日本語教室にご理解・ご経験のある方々に記事をお願いし、掲載していきたいと計画しています。ご期待下さい。

掲載についてのご意見がありましたら今後とも宜しく申し上げます。

入門期の学習支援で 心がけていること

石原 奈緒美 (IAF日本語教室/港区)

日本語学校とは違い、ニーズも学習開始時期もさまざまな学習者たちの理解を助けたり、上達を早めるためには既存の教科書に頼っているだけではうまくいきません。

入門期には単純に暗記しなければならないものも多く、興味深く学習を進めていかないと学習者たちはすぐにやる気を無くしてしまいます。日本語は「つまらない」「難しい」、そう思わせないためには、さまざまな教材、そして工夫が必要です。

入門期の学習支援で心がけていることは、1.わかりやすい導入 2.必要最小限の情報提供 3.アイデアあふれる反復練習 4.楽しい雰囲気、以上四つです。

1.わかりやすい導入

どこの国の人にも必ず「あるあるそんな場面」と思えるような状況設定をして、新しい言い回しを使ってみせます。英語での訳を求める学習者もいますが、対訳法で身につける日本語より、より多くの日本語にふれることになる利点を話し、日本語で聞き、日

本語で考える習慣を養ってもらうようにしています。

2.必要最小限の情報提供

日本語を初めて学習する人にとって多すぎる情報は混乱を招くこととなります。できるだけ使用頻度の高い簡単な言い回しを探し、どんな場面で使われるのか、その例を多く示します。こんなものもある、あんなものもあるという難しい知識的な広がりを求めることは、後になって日本語力がついてきたらいくらでもできます。意思疎通のための基本を押さえて、「使える日本語」を学習するよう心がけています。

3.アイデアあふれる反復練習

クラスで単純に反復練習を繰り返しているのでは、定着率も悪くつまらない勉強になってしまいます。ロールプレー、クイズ、ゲームなど、楽しそうなことで取り入れられそうなことをいろいろ試してみています。同じ学習内容の反復でも、練習の仕方が違っているとみんなは熱心に取り組んでくれます。文字カードを使っての単語探しや簡単

なカルタ、トランプを使っての数字遊びなどは評判がよく、「又やろう」とリクエストがでるくらいです。ゲームなどを行う際、宗教的習慣を熟知しておかないとゲームに参加できない人がいて困ることもあります。

4.楽しい雰囲気

日本語があまり上達しなくても、「教室に行ってみると日本語で話すのが楽しいから」と続けて来てくれるのはうれしいです。入門期から初級にかけての学習者は、とにかく継続することが大切だと思います。つまらなければ行きたくなくなるのは誰しも一緒。ましてや右も左もわからない入門期、この時期楽しく日本語の学習が始められたら、もっといろいろなことを知りたいと思って熱心に勉強するようになるでしょう。たとえ途中で挫折したとしても、基本的な部分がしっかりしていれば挽回は楽です。でも楽しいだけの単なる仲良しクラスで終わらせるのではなく、協力と競争が並存しているクラスを理想としています。

親子で学ぶ日本語

- やさしい日本語
- 緑ヶ丘日本語チャット
- 子どもといっしょ♡日本語の会くれよん



今回は「乳幼児を連れた学習者を受け入れる日本語教室」の紹介をしたいと、1.江東区「やさしい日本語」の岡田さん、2.目黒区「緑ヶ丘日本語チャット」の森岡さん、3.同区「子どもといっしょ♡にほんごの会くれよん」の石原さんのお話をうかがいました。

1.は保育を確保しての日本語学習、2.は託児しながらの日本語学習と交流、3.は子供を交えての日本語学習と交流に重点があるようです。

1 やさしい日本語

yasashii-nihongo@mbh.nifty.com

電話03-5603-8445

'91年日本語教室を始めましたが、'92年女性センターにも教室を開きました。ここでは明るい清潔な保育室で、専門の保育士がつき、母国語も生活習慣も異なる子供(1歳半~6歳)が他の民間グループの子供といっしょに遊んでいます。保育代、遊具、保険料などは区の負担です。こうした恵まれた保育があるので、学習者は安心して子供を預けレッスンに集中できるし、いろいろ情報交換もできると評判は上々です。

受け入れ人数に限りがあり(現在8人)、半年以上待ってもらうケースがあることと、1年に数回保育を受けられない日があるのが残念です。その日は自主保育をしています。

2 緑ヶ丘日本語チャット

minichat@sp.catv.ne.jp

初めは、幼稚園児を持つ外国人の親のための手助けでした。とにかく言葉がわからなくて何も出来ない、日常生活に困るという中で、情報提供と当面の生活サポートを始めました。

外国人女性達は国籍も配偶者の職業も様々でしたが、子連れゆえに日本語を学ぶ機会もなく実生活に支障があるだけでなく、全く社会に参加出来ないことへの不満もありました。(本国で活躍されていた方などなおさら)

そこで火曜日の午前中に緑ヶ丘文化会館に学習者

や支援者が集まり、保育士やボランティアが子供を遊ばせる傍らで日本語を学習するようになりました。子供連れでない人も含め、日本語の学習だけでなく幅広い交流を目指し、料理や季節のパーティーなどもしています。

悩みは保育のスペースが狭く設備も無いこと、さらに保育ボランティアの確保です。乳児の保育も必要な中で子供の安全が気になります。資金面では学習者から年に2400円集めるだけなので、保育士の謝礼その他を行政の補助金、バザーなどでやりくりしています。

3 子どもといっしょ♡日本語の会くれよん

crayons@tx.catv.ne.jp

女性センターで木曜日10時から5時まで、誰でも都合のよい時間をペアの支援者と打ち合わせて、学習、交流できるようにしています。保育室はありますが別室で保育はしません。むしろ子供と遊びながら子供を通して、日本語のみならずいろいろ学習するようにしています。学習者も支援者も一日100円負担します。

また行政に働きかけ、多言語育児情報誌を作り、幼稚園情報や行政サービス、地域生活情報などを日本語の読めない区民にも届くようにしようとしています。

まだまだ行政は<保育付き民間活動>を十分に支援しているとはいえませんが、国籍を問わない子育て支援は男女平等推進の基本であり<平和と人権>の実現のためには当然のことと考えています。

取材を通じて分かったのは、乳幼児を抱えての学習の必要性が理解されてない中、ボランティアの熱意で保育付きの教室が活動していることです。

しかし現状では、各地の多くの子連れ日本語学習希望者が、十分な保育体制がないため受け入れられていません。やはり行政と民間と協力して、子供連れ学習が出来るよう、いろいろな形での支援の輪を広げていきたいものです。

ご存知ですか？

Michiko ALLENの

カリフォルニア風 タコススープの作り方

材料 (4人分)

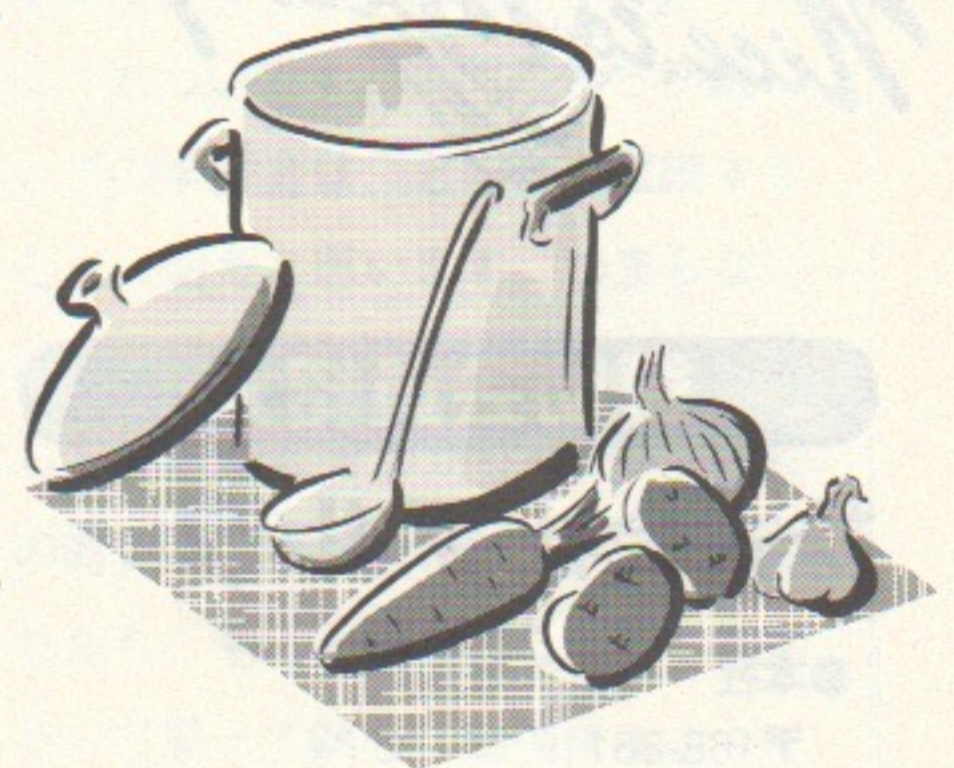
玉ねぎ	1個
インゲン	100g
ホールコーン缶 (198g)	1個
キドニービーンズ缶 (425g)	1個 (水洗いしておく)
大豆の水煮缶 (140g)	1個
ホールトマト缶 (400g)	1個
トマトピューレ (200g)	1本
コンソメキューブ	1個
タコスミックス	1袋 (LAWRY's TACO, Spices & Seasonings)
サワークリーム (125g)	1個
油	大さじ1杯
水	400ml
クミンシード	2つまみ程度
こしょう	少々
コーンチップス (プレーン)	1袋

作り方

1. 玉ねぎはみじん切り、インゲンは1cmに切る。
2. インゲン、大豆、キドニービーンズはさっと下ゆでしておく。
3. 玉ねぎはレンジで4分位加熱した後、油大さじ1杯で10秒位炒める。
4. 鍋にホールトマトを入れてつぶし、そこに炒めた玉ねぎ、下ゆでしたインゲン、大豆、キドニービーンズと、水を切ったコーン、トマトピューレ、クミンシード、コンソメキューブ、タコスミックス、水とこしょうを入れて混ぜ、沸騰するまで煮る。
5. 1人分ずつスープ皿に盛り、それぞれにサワークリーム小さじ1杯とコーンチップス4~5枚をくぐらして入れ、混ぜていただく。

上記のタコスミックスその他の食材は、以下のお店にお問い合わせ下さい。

- カルディ コーヒーファーム
フリーダイヤル 0120-522-699
ホームページ <http://www.kaldi.co.jp/>



TNVNからのお知らせ

情報交換会

テーマ: 「どんな教材を使っていますか」
日時: 3月15日(金) 14:00~16:00
場所: 東京ボランティア市民活動センター
B会議室
新宿区神楽河岸1-1
セントラルプラザ10階

内容

現在、日本語ボランティア教室で実際に使用しているテキストの紹介を通して、なぜこれを使うようになったか、どのように使っているか、広く意見交換を行います。

皆さんの教室で使っているテキストを紹介して下さい。

「手作りテキスト」を活用されている団体がありましたら是非お知らせ下さい。

TNVN事務局(P-8参照)または下記にご連絡下さい。

E-mail: tnvn@t3.rim.or.jp
またはFAXでお願いします

「第9回TNVN総会」を開催します

2001年度の東京日本語ボランティア・ネットワーク総会を下記の通り開催します。会員団体が一同に集まるよい機会です。こ

の機会に会員同士の交流をはかり、皆さんの活動とTNVNの運営について自由な意見交換をしていただきたいと思います。追って詳細はご案内状を差し上げます。

日時: 4月20日(土) 18:00~20:00

今回は場所の都合で上記の時間となりました。

場所: 東京ボランティア市民活動センター
会議室

新宿区神楽河岸1-1

セントラルプラザ10階



会員団体紹介

30階建て高層ビルの中の日本語教室

町田国際協会 (MIF) 日本語教室

大河内 則子 (町田市)

横浜市と相模原市に隣接する町田市は、人口38万5千、外国人登録者数3,483人の商業住宅都市です。再開発が進む町田駅周辺は、週末には若者であふれる活気ある市の中心部です。駅から5分ほど歩くと、町田市の新しいシンボル、30階建ての高層ビルがあり、その4階に町田国際協会があります。

協会設立は1998年7月。市内桜美林大学の松下達彦先生を総合コーディネーターとして2回の日本語ボランティア養成講座を開設し、その修了者が開い

たのがMIF日本語教室です。現在、支援者は経験者や有資格者も参加して58名。学習者は五大陸にわたり、入門から上級まで延べ145名。クラスは託児付き2クラスを含む6クラスです。学習者の中には高学歴、知的職業人も多く、鋭い質問に一瞬たじろぐこともあります。それを刺激剤にして、努力と工夫を重ねる熱意ある支援者に支えられています。

教室の特徴の一つは、託児付きクラスがあることです。ベテラン保母さんと託児ボランティアが子供をみている間、外国人ママ

は安心して学習に集中でき、一時育児から解放されホッとする貴重な時間にもなっています。託児は負担の重い活動ですが、協会のサポートが得られるというメリットを生かして開設時から実施しています。また、協会内には外国人相談コーナーもあり、在住外国人が抱える様々な暮らしの相談に具体的なアドバイスをしているボランティアもいます。

地域に共に暮らす隣人として、日本語学習を通して共に学び、理解を深め、協力し合う場を築き広めて行くのが私達の願いです。



賛助会員紹介

株式会社アルク

●本社

〒168-8611

東京都杉並区永福2-54-12

TEL: 03-3323-1101 (代表)

ホームページ: <http://www.alc.co.jp>

●日本語事業部

〒168-0064

東京都杉並区永福1-44-12

永福中根ビル4F

TEL: 03-3323-1176 (営業部)

FAX: 03-3323-2021

●日本語センター

<http://www.alc.co.jp/nihongo/>

アルク日本語事業部は、種々の活動を通して内外の日本語学習者や日本語教師、日本語教師志望者、日本語教育機関などのネットワークに努め、日本語教育の裾野の拡大を推し進めています。

◎アルクの書籍紹介

『「地域の日本語教育」ボランティアで日本語を教える—基礎知識・情報から教え方まで—』

大阪YMCA日本語教師会岡本牧子 編著
2,000円(税別)/A5版/224頁

本書では、「日本語ボランティア」に関心がある人や、実際に教え始めたけれど、「こういう場合にはどうすればいいのだろう」という疑問を抱えている人などのために、「基礎知識と情報」「授業入門」の2部構成で、ボランティアで日本語を教える際に必要なノウハウをわかりやすく解説しています。

前半の「基礎知識と情報」では、日本での進学を目指す学習者に教える場合

の多い民間の教育機関の日本語教師と、学習理由や年齢もさまざまな幅広い層の学習者に教えることの多いボランティアとの違いに注目しながら、学習者と接する際の心構えや注意点などを解説しています。

後半の「授業入門」では、学習者の日本語能力のレベルチェックや、学習方針の決定といった、最初の授業を始める前に必要な作業から、教案作成、実際の授業での具体的な指導・練習方法まで、それぞれの段階でのポイントを、授業の流れに沿って解説しています。

また、実際にボランティアをしていく中では、学習者から日本で生活する上での悩みや相談を受けることも少なくないでしょう。そんなときは本書中の「相談事例」を参考にしてみてください。「外国人という理由で学習者が入居を断られたのだが、どうすればいいか」など、現役ボランティアとして活躍中の人から寄せられた40の相談事例を挙げて、アドバイスを提示しています。

友達は私にとって宝物

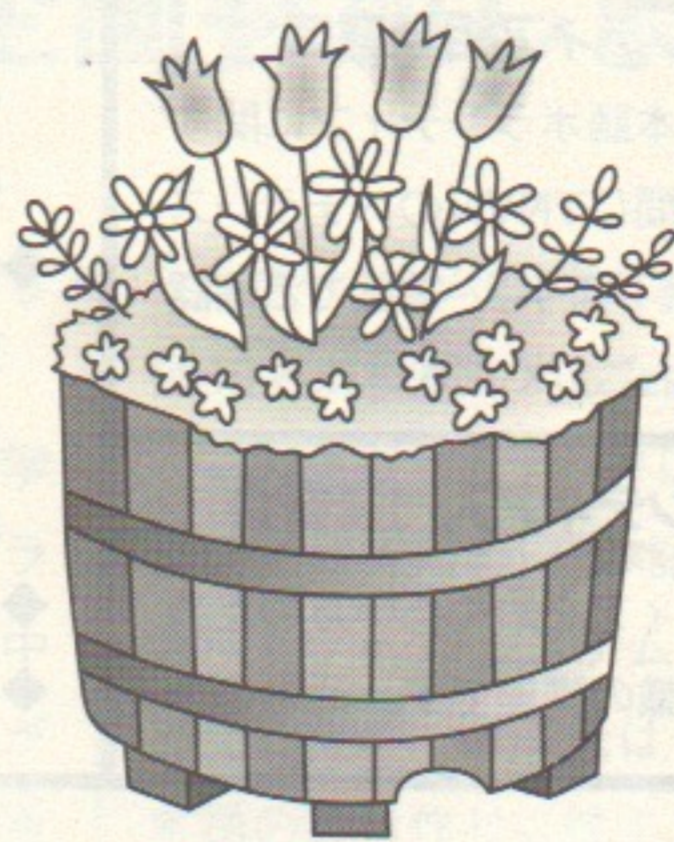
呂放明（ロホウメイ）
台湾／日本語とも会（北区）

ちなみに、冬に教室が終わってから、いつも河田さんと話しながら自転車で寮に帰っていた時、外は寒かったのに心がとても温かかったのです。山本さんは留学生達の母さんのように、いつも食事したり話したりしていますが、私達の悩みを聞きながら私達にAdviceをくれ、解決します。皆さんと、2000年の夏にもたくさん素晴らしい思い出を作りました。

時間が流れ、日本で生活していないと、せっかく習った日本語を忘れてしまうかも知れないけれど、友達は私にとって宝物で、いつまでも大切にしたいと思っています。日本語教室で出会ったVolunteerの人達や仲間は私にとって友達です。

皆さんにももらった恩恵も全然忘れられないし、色々な人達と知り合えたことが幸せで、日本語教室の思い出も美しく、過去ではありません。これから、もっと素晴らしい思い出を作りたいから……ずっと信じています。

みなさん、どうもありがとうございました。



もう一年半になります。先輩が私を十条の中央公園文化センターに連れて行った事です。その時の記憶は、毎週の火曜日と木曜日の夜、いつも沢山、私のように日本に来たばかりの外国人達が日本語教室に来ていました。

Groupで日本人のVolunteerと話しながら、自分の国を紹介し、そして日本語の勉強をやっていたのです。

日増しに日本の生活に慣れ、きれいな日本語を使えるようになったのだろう。そして、異文化交流を行うと色々な国の事情も学べるのだろう。

ここによく来ている日本語のVolunteerはやさしくて、外国の文化などの趣味を持ってて、いつも異郷で暮らしている私達を応援してくれています。休みの日に皆と一緒に遊びに行きましたがお互い違う国や民族でも、（日本語でうまく言えないけれど）大切なものは「心」だと思いました。

私にとって日本での暮らしは、たった半年でしたが、日本人のVolunteerの皆さんにいっぱい助けてもらいました。その中でも一番大好きで仲良くなった日本人は河田さん、山本さん、服部さんだろうか。他の皆さんにも、勉強に来ている私や大切な友達を受け入れてくれている事を感謝しています。

「生きた会話」

今年の課題

遠藤竹一
早稲田奉仕園日本語サークル／新宿区

早稲田奉仕園日本語サークルに参加して早くも2年余が過ぎた。

教えた方は中国・韓国各二人である。もうそろそろ「ああ、外国人に日本語を教える要領は、こうすればよいのだ、もう大体わかった」というセリフが出てよさそうなのであるが、一向にそうならない。彼等が目に見えて日本語がうまくなったとは実感し難い。

「Aさんは助詞の使い方に苦労して、こういう風に説明したら良く解って、それからグングンうまくなったよ」といつたハナシがないのである。「みんなの日本語」の文型を一通りやつたし、Bさんには「て形」を初中級の教科書を使って詳しく説明した。彼等の理解度は大変なものでよく短期間でわかるものだなと感心する「しかし」である。

教科書を離れて自分や家族の事、お国での生活の様子などを話し始めるとどうもすっきりしない。文法も文型もよく理解しているのに日

常会話のテンポになかなか乗れないのである。最近やっと気がついた。「習うより慣れる」「聴いて、訊いて、真似して、話せる」である。彼等が一番欲しているのは「生きた会話」即ち、日本人とのコミュニケーションである。教科書がいくら出来ても実際にはなかなか話せない。どこかの国の英語教育と同じではないか。

「生きた会話」をどう教えるか？①テープでも何でも結構、日本人同士の会話をもっと聴いてもらい、そしてその場で解らない単語、表現を徹底的に訊いてもらう②フィールド・トリップ、現場経験である。一緒に街を歩いて実際に会話をしてもらう、そしてその場で直ぐ訂正、学習するこの2点にどう取組み実行していくかが私の今年の課題である。

勿論その前提として、どんな質問にも臨機応変に答えられるだけのしっかりとした日本語の文法、文型の説明力が必要である。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックスNO.4
TEL: 03-3235-1171
(呼び出し:金曜日午後のみ)
FAX: 03-3235-0050
URL: http://www.t3.rim.or.jp/~tnvn/
MAIL ID: tnvn@t3.rim.or.jp

●事務局は金曜日に活動しています。

◆日時: 毎週金曜日午後2~7時

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター



●日本語ボランティア相談窓口

事務局では日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にTNVNのベテランスタッフがおこたえします。電話でご確認の上、お気軽におこしてください。

●日本語ボランティア入門講習会

日本語ボランティアを始めたい方のために役立つ基礎知識の講座です。活動のオ

リエンテーションとしてぜひ受講してください。全4回(4ヶ月)

◆テーマ

- (3月) 日本語ボランティアとは?
- (4月) 日本語再発見
- (5月) 学習者はどのような人たちか?
- (6月) 日本語学習をどのように支援するか?

◆日時

- 3月 8日 (金) 午後2:00~4:00
- 3月22日 (金) 午後6:00~8:00
- 4月12日 (金) 午後2:00~4:00
- 4月26日 (金) 午後6:00~8:00
- 5月10日 (金) 午後2:00~4:00
- 5月24日 (金) 午後6:00~8:00
- 6月14日 (金) 午後2:00~4:00
- 6月28日 (金) 午後6:00~8:00

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター会議室
飯田橋セントラルプラザ10階 (JR・地下鉄飯田橋駅下車徒歩1分)

◆参加費/1回600円 (TNVN会員は300円)

◆参加申込み/直接、会場へおこしてください。

TNVNへの入会を希望する方は

TNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。(送料90円 切手同封)
<入会手続>申込用紙に必要事項を記入し、TNVN事務局に郵送またはFAXでお送り下さい。あわせて会費をお振り込みください。会員の方には毎回ニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ会員価格で参加できます。

◆会費/正会員: 年会費3,000円

協力会員: 年会費2,000円

賛助会員: 年会費1口1万円

◆会費払込み先

郵便振替口座番号00100-1-719259

口座名

東京日本語ボランティア・ネットワーク

(通信欄に「年会費」と記入)

連絡先の変更等は、郵便かFAXで

団体の代表・連絡先 (TNVNからの郵便物の宛先)・住所などの変更および退会は、事務局まで郵便やFAXでお知らせください。

Mail
メールの問い合わせ
あれこれ Mail

昨年の10月から、TNVNへのe-mailによる問い合わせに返事をする担当者が変わりました。現在は、大久保澄子と藤橋帥子が担当しています。

10月以来、平均一ヶ月に70通の問い合わせがあります。断然多いのが、学習希望者からの教室の問い合わせ。本人からはもちろんのこと、配偶者や、友達からのもの、中には会社の秘書からのもの、海外からのメールもかなりあります。

次が、ボランティアをしたいという日本人からのもの。そして、TNVNへの入会や、入門講習会への問い合わせとなります。

とにかくe-mailですから反応が早く、出したと思ったら、すぐ返事がくることもたびたびで、その度にびっくりしたり、うれ

しく思ったり。今後どういうメールが来ているのかを、毎回、ご紹介していきたいと思います。

今回は、一番多い、国内の学習希望者からの教室問い合わせです。

代表的なものは、「世田谷に住んでいます。近くの教室を教えてください。」というものです。世田谷といっても広く、電車の路線が違ったら、とんでもなく遠いですね。まず、どこに住んでいるか、近くの駅はどこか、利用する路線は何か、学校や会社のようにいつも通っている場所があればその場所、というように、具体的に聞きます。そして、通える範囲の教室の情報を送ります。その際、教室の代表者など、メールで連絡がつく方のメールアドレスがこちらにある場合、すぐに教室の関係者から、「来ましたよ」という情報とか「もう、行きました。ありがとう。」との本人からのメールが入ります。皆さんの教室は、メールアドレスを届けていますか?もし、まだなら、是非ともメールアドレスをこちらに下さい!

SPECIAL THANKS

★「やさしい日本語」岡田様、
「緑ヶ丘日本語チャット」森岡様、
「子どもといっしょにほんごの会くれよん」石原様
快く取材に応じていただきました。

新入会員のご紹介

★協力会員 (個人)

大江 賢一郎、手塚 明代、西川 由美

* 2002年2月8日現在の会員数: 正会員68団体、協力会員92名、賛助会員6



編集/上野悦子、大久保澄子
岡田美奈子、甲斐武子、梶村勝利
木村茂、床呂英一、富岡真木子
林川玲子、山縣みつる、山崎美智子
レイアウト/鶴田環恵